

分野	子ども・子育て	
<p>現状と課題(A欄)</p>	<p>「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など(C欄)</p>	
	<p>(基本的な取組の方向性)</p>	<p>(具体的な手段・方法、取組など)</p>
<p>(現基本構想の進捗検証・評価)</p> <p>○行政が直接もしくは委託により担っている事業は、きめ細かく充実している。</p> <p>○身近なところで、育児経験者とつながれる仕組みがあり良い。</p> <p>○育む環境の育成支援(地域づくり)が不足している。子育て家庭の4割が家庭保育であることから、家庭保育の支援もしっかりと行う必要がある。</p> <p>(今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点)</p> <p>○時間・空間・仲間・世間の「4間」が失われている。</p> <p>○一定の価値観で評価される社会となっており、親も子も評価を気にし、多様な価値観を受け入れることもできなくなっている。</p> <p>○親の孤立化も課題であり、親自身を育てていかなければならない。地域でサポートしていかなければならないが、それも難しくなっている。</p> <p>○貧困も子どもの生きるエネルギーを奪うものであり、それをどうキャッチアップしていくかが課題である。</p>	<p>【新しい評価・多様性の受入れ】</p> <p>○子どもたちの声を聞ける社会や地域社会にするため、大人の意識改革をし、親自身も育てていく。</p> <p>○評価のあり方を変え、「良いところを伸ばす」「良いところを認めてあげる」ようにしていことが必要。社会の中に、子どもたちが、そして子育て中の母親が、評価を受けなくてもいい場所や自由に過ごせる場所を作っていく。</p>	<p>【新しい評価・多様性の受入れ】</p> <p>○嫌だなと感じたことを話せる社会や仕組みを作る。また、子育て中の親からも大変だという声を聞くことができる仕組みを作る。</p> <p>○プロジェクトベースドラニングや子どもたちが地域住民に対し発表する仕組みを作る。これを地域住民に採点をしてもらうことで、学校だけではなく地域の評価も取り入れる。</p> <p>○交流自治体へもっと頻繁に行き来できる仕組みを作り、かつ学校混合で行くことで、普段と違う体験をする。</p>
<p>目指すべきまちの姿(B欄)</p>	<p>【地域の力の活用】</p> <p>○「実親」だけで子育てを行うのではなく、「地域親」「コミュニティペアレンツ」が子育てをサポートしていく。</p> <p>○行政が、意識の高い地域住民やNP</p> <p>○等の団体の力を引き上げてサポートし、活かしていく。</p>	<p>【地域の力の活用】</p> <p>○地域で支える仕組みや居場所づくりを行う。子どもを主役に地域の高齢者が関わるプレーパークを学校内に作る。</p> <p>○子どもたちが、区内の子ども食堂や困っている方のみが利用する施設などを巡るイベントを日常的に行い、様々な人たちと巡り合い、触れ合える機会としていく。</p> <p>○ネグレクト家庭へ大学生を定期的に派遣し、子どもの支援を行う。</p>
<p>(目指すべきまちの姿)</p> <p>身近な地域で、共に認め合いながら、子どもが子どもらしく、親が親らしく、のびのびと自己実現ができるまち</p> <p>(目指すべきまちの姿を設定した考え方など)</p> <p>○多様性を認めあえる社会にしていかなければならない。</p> <p>○お互いに配慮しあいながら、頼ってもいい、間違ってもいいと言いつける社会を作っていく必要がある。</p> <p>○「孤立」を防ぎ、「つながる社会」にしていかなければならない。行政がきっかけを作り、地域住民の力やエネルギーを引き出すことで、地域住民が主体的に関わっていくようにしてい必要がある。</p>	<p>【居場所づくり】</p> <p>○子どもたちが、未来へ自信をもって、のびのびと育っていける社会としていく。</p> <p>○子どもが異世代間で交流できる場所や受け入れられる場所を設けていく。</p>	<p>【居場所づくり】</p> <p>○スポーツチームや塾などのコミュニティと行政がコラボレーションして、子どもの居場所をつくる。</p> <p>○子どもを同い年の中で遊ばせるのではなく、比べられることのないアクティビティを数多く提供する。</p> <p>○校庭開放などを活用し、子どもが身体を動かせる環境づくりを行う。</p>